

特別展「比田井南谷～線の芸術～」 ご来館者の感想

○10月12日～10月16日分

線の表現に無限を感じました。

前期に続き後期も魅力的な作品がありました。

書とは何か、絵とは何か、芸術とは何かを考えさせられた貴重な時間となりました。

自分でたぐりよせた線とわかり素晴らしいと思います。

前期を見逃してしまったのが残念です。

チラシを見た時から、不思議な文字だなと思い展覧会を見に来ました。自由闊達な抽象画です。スペインのミロの絵に通じます。

1は、サンショウウオかヤモリみたいでかわいいな。

大変素晴らしかったです。

カビ、赤血球、人骨、竹の節、白鳥、漆器、おもちゃのブロック、サクランボ、花、萬草、水流、空模様、花瓶、えのきだけ、線香花火、糸、黒幕、鋼、黒幕、コマ、キョロちゃん、猫、ソファに横たわる人、体操する人、音楽…様々なものが見えてきました。自然や人為的なもの、善悪などの境なく、果てしない想像、創造を感じました。音楽の道を断念し、腐れど音楽は内に生き続け敗戦を経ても、この生を愛おしく全うされたのでしょうか。「ありのままの姿を(陰の部分も)正直に露呈しようとした。」は心に残る言葉でした。

私には奥が深すぎて…持っている感性がすごい。

私自身習字を八年間習っていたので、書と芸術の境とは何か考えさせられました。書で自らを表現することの深さを知ることができました。

心の底から湧き出ずる強い気持ちを感じた。臨書、音楽、自由な表現によるものだろうかと思った。

毎回新しい発見がある。

南谷の書に対する情熱が伝わってきて、声がありません。あくなき探求心、線への迫及、古典への尊敬とともに彼の努力が実った作品群に圧倒されました。現代美術の李(リーウーファン)も彼の作品に刺激を受けていたのではないか。

墨色の変化がおもしろい。

改めて書は、線と空間の芸術だということを認識しました。書の文字性については答えの出ない問ですね。やはりパイオニアはスゴイの一言です。ありがとうございました。

筆順の後の線が前の線の上に残る筆跡を見て感動した。

南谷先生の芸術的作品を理解するのは大変なことです。基本的な臨書作品を観る事も出来、良かったです。書の線を感じる事が出来ました。

古典から前衛書へ、新しい時代を切り開いた書家の作品をじっくり観ることができました。文字が苦手な私にとって現代書道は心の救いでした。今でもそうであることを再確認しました。すてきな展示でした。

戦後、作風がどんどん自由になっていくのがよくわかりました。

大学で少しだけ学習していたので見に来たのですが、臨書作品や学生時代の版画など代表作以外のものも多く見ることができてよかったです。

線のあとがよく見え、書き方がよくわかります。線線のすじあとが見えると息づかいが伝わります。

拓本などでなく肉質でユーモラスな線。実用的に使うよう考えられたことに感心。

書に対し新しい発見をした思いです。臨書、古筆が基礎・根本なのですね。南谷の文字にも好感でした。

前後期ともにたくさんの作品を展示していただきありがとうございました。素晴らしい展覧会でした。

この作品を初めて見たのは高校生の時で、人がじっとたたずんでこちらを見ていると感じ、カルチャーショックでした。

書のアートであり、現代の家に飾れる、生き残る書のかたち

臨書の隷書も好きです。年賀状とか電線用のフォントなど作品以外のものも良かったです。古典の臨書が素晴らしかった。

どんな形をうみだしていてもその間と線の心地よさが大切なことを改めて感じました。やっぱりスゴイ！

現代書の代表的作家の南谷作品を見る機会を与えていただきありがとうございます。

今回2回めの来館ですが、どの作品も線が表す表情がおもしろい！！そして力強い。もっと自由でいいのだと思う。

墨象作品の見方をあらためて知りました。

どこか音楽を感じさせる作風に思いましたが、ヴァイオリンをやっていたと知り、さもありませんという気持ちです。いいところのお坊ちゃんですね。

前・後期と見に来ました。おもしろかったので、また他の作品も見たいと思いました。

極限までとぎすまされた線の美しさ、作品 63-10 などは線が浮き上がって見えた。

書のジャンルに前衛書が存在することを改めて認識できる特別展でした。

全てに感動

とても新しい感覚で勉強になりました。

前衛的な作品の背景には古典の熱心な観察があることを学びました。

自由な線の表現がすばらしく、オシャレでユーモアが観られて良かったです。

かっこよかった。ボリューム、迫力、空間、線

海外に広めたいという気持ちに共感します。バランスと線が本当に素敵だと思った。

どのような心境、場面で書いたのか気になった。どの作品も様々な心境が表われてたと感じた。悲しい気持ち、楽しい気持ちなどと伝わってきた。字だけでなく、自由に書くことも大切だと感じた。

戦後間もないころに、それまでの書の型を破る作品を残していることに驚きました。

分からないけど？字？絵？書いてみたい。

計算しつくした原稿から作品が生まれていることがよくわかりました。多くの作品の工夫された展示をありがとうございました。